

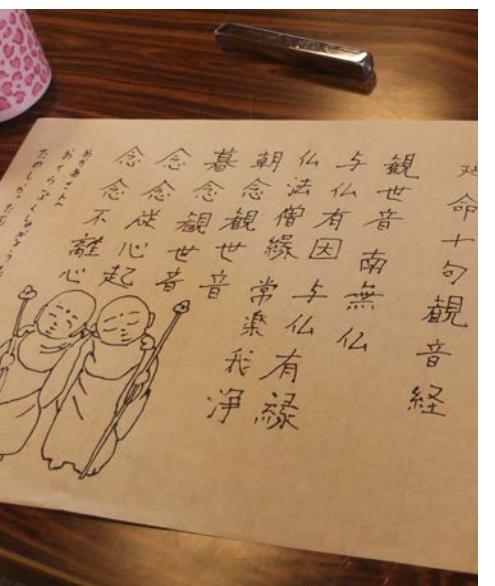
あなたとお寺をむすぶ架け橋、
お寺の元気をお届けします



広徳寺通信

75号

お寺のできごと



暑いといったら極端に暑く、寒いといったらまた極端に寒い今年の夏もお盆が過ぎ、時期が来れば朝晩涼しい風がふくようになりますね。

地獄へ墮ちたらまっすぐに
地獄をつとめあげるより途はない
それは逃げても逃げられず
拒絶しても拒絶できぬことだから
——ただ弱い私がどうしてそれに耐え
それを乗り切ることができるだろう——

“南無觀世音菩薩”

(内山興正『觀音經・十句觀音經を味わう』)

寺こや自然塾に来た子どもたちと写
経を楽しみました。觀音様のお経を
読んで、觀音様のお経を書いて、仏
様の姿を写して、お父さんにお母さ
んに、お祖父ちゃんにお祖母ちゃん
に、メッセージを添えました。私は
私、今生かされてあるこのいのちか
ら決して離れることはないのだから
ら、このいのちの風を生き生きと生
き切る。朝な夕なに念じていくこと
の大切さを勉強した夏でした。

発行元 曹洞宗慈眼山広徳寺
平成三十年九月一日発行

七月二十一 - 二十二日（土日）
第9回目となる「寺こや自然塾」
を開催しました。元気いっぱい
の子どもたちの修行の様子は裏
面に載せてあります。

七月はお盆に向けた準備をしま
した。夏はお参りの方の出入り
も多いので、窓ふき、草刈り、
永代供養塔や墓地清掃など外回
りを重点的に行いました。

八月九日より一週間、お盆の棚
経で家々をお参りさせていただき
ました。夏はお参りの方の出入り
勤めしました。お盆のお墓参り
では、お供物を持ち帰っていました
だくことにご協力いただきあり
りますとどうしても、カラス・
カモメが食べ散らかし、また糞
を残すので、せつかくきれいに
した墓石も汚れてしまいます。
お盆済んで、お檀家さんの林原
隆夫さん・大沢成人さんに墓地
清掃をお手伝いいただきました。
ありがとうございます！

八月十八日は盂蘭盆会施食会を
修行し、たくさんの方にご焼香
いただきました。ありがとうございました。
今日はお説教の代わりに、鬼剣
舞が披露されました。学生たち
のエネルギーが跳躍に生き
る力を分けてもらえた舞台でし
た。ありがとうございます！



▶ 雨がちなお盆でしたが、13日墓経と18日お寺参りとよく晴れました。皆様の思いが行き渡る本堂での読経でした。

▶ 婦人会の方が仏様にあげるお団子を一つ一つ手作りします。

▶ お寺参り終わっての御斎(おとき)。冷汁のお味はいかがでしたでしょうか？



▶ お寺参り終わって、水塔婆を海に流しました。

お寺の庭から 「親を弔う」



6月東京にいる父が突然他界致しました。といつても92歳。いつ何があつてもおかしくない年齢でした。天寿全うしたと思います。

6月3日、『父が肺炎を起こして入院した』と弟から連絡が来て、『じゃあ7日に行くね』と言つて航空券を手配しました。4日の夜になつて『7日では間に合わないかもしない』との連絡が入りました。翌5日の朝一便で病院に駆けつけ、昼頃やつと病院に到着。その日の朝まであつた意識は無く呼吸器のお陰で呼吸している状態でした。それでも耳元で『頑張つて』といふ声には傾いてくれました。夕方、温かい父の手を握つて見送りました。素早い判断をしてくれた弟に感謝です。段々と顔の色が変わり始め、今迄お世話になつたお医者様にお別れを告げ、今度は葬儀屋さんのお世話に。

早速お葬儀についての話になりましたが、祭壇、棺、お料理等々、そして宗派を問われました。東京ですから、当然、簡単葬儀も選択肢の一つとして提案されると思つていきました。私がお寺の関係者で、仏式での正式なお葬儀をする事が前提であると伝えていなかつたにもかかわらず、予想に反して、家族葬など最近流行りの簡単葬儀の事など全く話に出ませんでした。葬儀の内容に関して弟と一つ一つ確認しながら決めて行きましたが、お互いに立派に送つてあげたい一心でした。

沢山の花を飾つた祭壇でお葬儀をして、立派な棺に父を入れて、最上級の炉で火葬していただきました。葬儀終了後、胸を張つて立派に親を送る事が出来たと思った私はとても満足感を味わいました。簡単に葬儀を済ませて親を送る、お安く済ませれば今後の自分の大切な人生もお安くなるのではないかと感じました。親を送る事は、自分の最後の通信簿だと思います。

私達兄妹は、母の年忌毎にお互いの子供達・孫達を集めて賑やかに年忌法要を営んでいます。そして弔う事、年忌をするという事を子供達に身をもつて教えていきます。法要を営む事で、行事を子供達も覚えていきます。



▶夜の花火たのしかったね。



▶本堂の鳴らし物に挑戦です。



▶住職さんのお話では皆正座。



▶朝起きて長い廊下を雑巾掛け！



▶姿勢を正して坐禅しました。



▶大きな鐘を鳴らしたよ！



▶お手伝いいただいた方、ありがとうございます！



▶ほうきをもって綺麗にします！

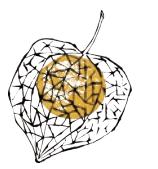


▶木魚ってよく見てみると…

お寺で修行体験！

(広徳寺寺族 高橋佳子)

たくさんの方の協力あつて今年も無事終えることができました。ありがとうございます。13名の小学生がお寺で一泊して修行体験をしましたよ。特に今年は、地元北斗市の高校生や先生方などの手伝いがあり、小学生ばかりでなく、支えるスタッフたちと一緒に修行する雰囲気がありました。じよじよに自然塾のかたちが見えて来たようです。来年は10周年。何をしようか今から楽しみです。



どんな国でも人を弔うのに簡素化などしてはいません。いつの時代も懇ろに葬っています。日本だけが簡素化という悪しき習慣になりつつあるという悲しい現実です。今生きている私達がきちんとお葬儀をあげ、年忌をやってその行事を後世に伝えていくことが使命ではないかと感じています。

私達は、生まれたその日から死に近付いて生活をしています。子供達に立派に送られるように、それが叶わない人は自分でその日をお迎えできるように準備しつつ毎日を大切に生きて行けたら良いですね。

6月東京にいる父が突然他界致しました。といつても92歳。いつ何があつてもおかしくない年齢でした。天寿全うしたと思います。

6月3日、『父が肺炎を起こして入院した』と弟から連絡が来て、『じゃあ7日に行くね』と言つて航空券を手配しました。4日の夜になつて『7日では間に合わないかもしない』との連絡が入りました。翌5日の朝一便で病院に駆けつけ、昼頃やつと病院に到着。その日の朝まであつた意識は無く呼吸器のお陰で呼吸している状態でした。それでも耳元で『頑張つて』といふ声には傾いてくれました。夕方、温かい父の手を握つて見送りました。素早い判断をしてくれた弟に感謝です。段々と顔の色が変わり始め、今迄お世話になつたお医者様にお別れを告げ、今度は葬儀屋さんのお世話に。

早速お葬儀についての話になりましたが、祭壇、棺、お料理等々、そして宗派を問われました。東京ですから、当然、簡単葬儀も選択肢の一つとして提案されると思つていきました。私がお寺の関係者で、仏式での正式なお葬儀をする事が前提であると伝えていなかつたにもかかわらず、予想に反して、家族葬など最近流行りの簡単葬儀の事など全く話に出ませんでした。葬儀の内容に関して弟と一つ一つ確認しながら決めて行きましたが、お互いに立派に送つてあげたい一心でした。

沢山の花を飾つた祭壇でお葬儀をして、立派な棺に父を入れて、最上級の炉で火葬していただきました。葬儀終了後、胸を張つて立派に親を送る事が出来たと思った私はとても満足感を味わいました。簡単に葬儀を済ませて親を送る、お安く済ませれば今後の自分の大切な人生もお安くなるのではないかと感じました。親を送る事は、自分の最後の通信簿だと思います。

私達兄妹は、母の年忌毎にお互いの子供達・孫達を集めて賑やかに年忌法要を営んでいます。そして弔う事、年忌をするという事を子供達に身をもつて教えていきます。法要を営む事で、行事を子供達も覚えていきます。